

大豆づくり情報

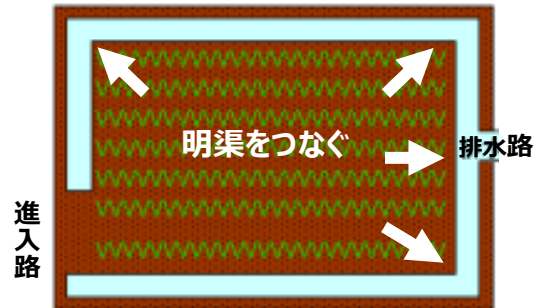
第 1 号

令和 5 年 5 月 18 日
村山総合支庁
農業技術普及課
TEL : 023-621-8295

基本技術の徹底で安定多収！排水対策・土づくりは必須！

排水対策は大豆栽培の基本！

- 播種から生育初期にかけて湿害を受けると、生育が抑制され収量が低下します。
⇒湿害回避のため、**排水対策を徹底**しましょう。
- 降雨の排水は地表からの排水が基本です。
播種前に畦畔に沿って明渠を掘りましょう。
明渠は、深さを **30~40cm** とし、**確実に排水路につなぎ**、排水効果を高めましょう。
- 水田転換畑は湿害が発生しやすいため、明渠だけでなく、**心土破碎(サブソイラー)**や**弾丸暗渠**等を積極的に組み合わせましょう。



土づくりの実施で地力と pH の向上を！

- 大豆は地力依存が高い作物であり、子実生産の 90%以上を地力と根粒菌由来の窒素に依存しています。⇒**地力や根粒活性の低下は収量の低下に直結！**
- 根粒菌の活性と大豆の生育に**最適な pH は 6.0~6.5** です。
pH5.5 を下回る圃場では、**石灰資材を投入し、pH を矯正**しましょう。
- 大豆を連作した畑は地力が低下するため、土づくり資材を投入するとともに、堆肥等の有機物を投入し、地力の向上を図りましょう。

【施用の目安】

堆肥等(現物量)	牛ふん堆肥 : 1~2 t / 10a または 発酵鶏糞 : 75kg / 10a		
石灰資材(現物量)	苦土石灰 : 100kg / 10a または 炭カル : 120kg / 10a		
基肥(成分量)	窒素2.5kg / 10a	リン酸7.5kg / 10a	カリ10kg / 10a

- 多量に窒素肥料を施用すると、根粒菌の着生と窒素固定量が減少するため注意が必要です。

初期生育確保のために適期播種を！

- 種子消毒(紫斑病・ネキリムシ等対策)は必ず行い、播種量は **4~5kg/10a** を目安としましょう。
- 播種適期は **5月20日~6月10日** です。やむをえず播種が遅くなる場合は、生育量不足を補うために、播種量を2割程度増やしましょう。
- 出芽安定のため、**碎土率**(直径2cm以下の土塊の割合)**70%程度**を確保しましょう。
- **最適な播種深度は3cm程度**です。これより浅いと水分不足、深いと酸素や温度不足となり、出芽が遅れるため注意が必要です。
- 圃場が乾燥している場合には、やや深めの播種深度としましょう。

除草剤は効果的に使用

- 雑草防除は、**適期播種による生育量の確保、除草剤の適期散布、適期中耕培土**が重要です。
- 土壌の碎土率が低かったり土壌が乾燥しすぎると、除草剤の層が出来にくく、除草効果が劣る可能性があるため注意しましょう。

【除草剤をしっかり効かせるためのポイント】

- ① **碎土率を高める** ② **適度な土壌水分の確保** ③ **散布タイミングを逃さない**

難防除雑草対策

- 管内で帰化アサガオ類の発生が確認されています。
帰化アサガオ類は、つる化すると防除は困難になり、圃場にまん延すると収量が大きく減少します。
⇒**早期発見・早期防除**が決め手！
- 帰化アサガオ類が発生している圃場では、土壌処理剤を確実に散布し、帰化アサガオ類に対して**効果の高い茎葉処理剤を、登録の範囲内で早めに散布**しましょう。
- 畦畔などの圃場周辺で発生を確認したら、直ちに抜き取り、**圃場への侵入を防ぎ**ましょう。



マルバルコウ



マメアサガオ



マルバアメリカアサガオ

※農研機構「帰化アサガオ類まん延防止対策マニュアル」より引用

春季農作業事故防止啓発運動 展開中 4月10日~6月10日

あせらず、気もまず、無理はせず！みんなで声を掛け合い、農作業事故をなくしましょう！
こまめに“休憩”、こまめに“水分補給”で「熱中症」を防止しましょう！